

原子力発電所安全学会

東北・北海道に支部

10日・仙台
設立総会

研究者の交流促進

原子力発電所の運転管理や維持補修など「保全活動」にかかわる研究者や電力会社の技術者らでつくる日本保全学会(東京、会長・宮建三東大名誉教授)の東北・北海道支部が発足する。同学会の地方支部設立は初。仙台市青葉区の東北大流体科学研究所大講義室で十日、設立総会を開く。

東北・北海道地域は、新潟県も含めると国内で稼働中の商業用原発五十五基中、約四割を占める

二十三基が立地する。支部設立は「原子力の重要地域である東北で研究者や技術者の交流を活発にし、原発の保全活動につなぐ」という。東北電力の支部は東北、北海道両電力や日立、東芝などのメーカー、大学の研究者や技術者ら会員約百二十人で発足。原子力分野を学ぶ学生も今後、募る。事務局を東北大流体科学研究所に置き、原発の保

全活動に関する住民向け講演会や海外研究者を招く国際セミナーなどを開く。

設立総会は十日午後二時から。支部役員を選任後、北村正晴東北大名誉教授、梅田建夫東北電力原子力部長がそれぞれ、保全活動の現状などについて基調講演する。